

統合医療施設

筋骨格系を整えることで血流を正常化し
“自然治癒力”を高める

丹羽クリニック(東京都新宿区)



東京・JR 大久保駅から徒歩3分という、賑やかで交通の便も良い場所にある丹羽クリニック。ここで院長を務める丹羽正幸先生(写真)は、一般診療から漢方、整体、栄養療法、温熱療法、音楽療法、花療法を含めた統合医療を提供している。アレルギー性疾患から、がんに至るまで、様々な病気や症状に悩む患者さんたちが絶えず待合室を訪れる。なかには、ステロイド軟膏と縁を切ってアトピー性皮膚炎を完治させたいと切望する患者さんも多い。

丹羽先生の経歴は大変ユニークで、もともと外科医として、Micro Surgery(顕微鏡手術)という移植時の微小血管をつなぎ合わせる手術を行い活躍していた。そして、その執刀経験の積み重ねから、「臓器の病変と体表の変化との相対関係に気付き、手術の前にするべきことが他にあるかもしれないと認識させられた」という。もっと具体的にいえば、病気によって内臓が変形している患者さんは、同時に、その筋肉や骨格も歪んでいるということに気が付いたのである。

●外科医の経験と東洋医学の知識から「丹羽式正體術」を考案

そこで、外科医としての実践で得た解剖学的な知識と、横浜市立大学医学部在籍時より研鑽を積んできた東洋医学の知識(漢方、中国医学、アーユルベータ、その他の伝統医学や食養生など)から、「丹羽式正體(せいたい)術」を考案することに至った。

これは、東洋医学という経絡(ツボ)治療ではなく、西洋医学の筋・骨格系を解剖学的に意識した、丹羽先生独自の整体術である。1988年のクリニック開設時からこの丹羽式正體術を活用し、西洋医学だけでは治癒に導くのが難しいといわれる疾患に対しても治療実績を上げてきた。

シンプルに考えても、体(筋肉や骨格系)が歪み、ねじれていたのでは、その部分の内臓には十分な血液が流れない。血流が悪ければ栄養や酸素が不足し、内臓の働きは悪くなる。だから、手技で外側から体を整えることにより、内臓の血流も正常化させ、それぞれの働きがスムーズになるのを目指し施術が功を奏するのだろう。丹羽先生は、メスを使わずともからだの奥深くにまでアプローチする治療方法を開発したといえる。

実際、クリニックに隣接する「丹伸(たんしん)研究所」と名づけられた統合医療専用の空間には、広々とした開放的な部屋があり、患者さんはそこで丹羽式正體術を受けることができるようになっている。こちらでは成人だけでなく、生後3カ月の乳幼児から施術を行っている。また自分の体の状態を客観的に理解出来る施設(CG画像で全身を360°チェックすることが出来る)もある。そして様々なケースに対応出来るよう、丹羽院長が自ら監修してできたサプリメントをはじめ、スキンケアシリーズ、生活環境まで幅広いラインナップがあり、全てが自己治癒能力を積極的に高めていくことを目的として作られたものになっている。

それらに加えて、昨年10月からはクリニックと同じビル内に、ギリシアの医神アスクレピオスの名を冠した「アスクレルーム」を開設した。

こちらは、「1回45分で室内の気圧を変化させ、全身の細胞の活性を促す」という施設で、病気治療中の方からリラクゼーション、アンチエイジング目的の方まで利用者は様々。丹羽クリニックとその関連施設では、こうした新たな試みが現在も続いている。

●アトピー性皮膚炎の治療数は7,000例

これまでに、アトピー性皮膚炎では約7,000例、がんや糖尿病の治療においても素晴らしい成績を上げている。基本的には、自然治癒能力を高める治療である。たとえば、がんの患者さんの多くは、免疫力が低下し、体内の敵と戦うリンパ球の個数の値が500個（血液1ml当たり）前後と減少することがほとんどであり、通常の治療を行ってもリンパ球の個数はせいぜい1,100～1,200個程度しか上昇しないことが多い。ところが、丹羽クリニックでは、「2,000個以上、場合によっては3,000個近くまで届くことがあります」と話す丹羽先生。先生自身、そしてクリニックのスタッフ全員がとても生き生きとしており、元気になっていく患者さんを見守ることのやりがいも、そこから伝わってくる。

■医療法人社団 丹伎会 丹羽クリニック

〒169-0074 東京都新宿区北新宿1-8-1 中島ビル2階

TEL : 03-3368-7587

FAX : 03-3368-7455

<http://www.niwa-clinic.com>